

## 供養されている私

先だった方々のはたらきかけには感謝しかありません。「大変な人生、阿弥陀さまに出会ってね」そう願ひ、いつでも見守ってくださっているのです。手を合わせる私の胸にいつでも帰ってきてくださる方です。「お盆が過ぎれば来年まで会えない」では寂しすぎるではありませんか。

そして迷いに迷う、あぶなっかしい私が仏となられた方を供養できるはずもありません。反対に供養されなければならぬ私です。お盆という機縁に、この私が阿弥陀さまに会わせていただきますように。



各種問い合わせや法事のご予約などを承っております。住職はたいていここにおります。

玉砂利が敷いてあった地面は石畳に変わりました。車椅子や歩行器の方も安心して参拝していただけます。

## 世話がないようでいて難しい

冒頭で紹介した坊主バーの会場では、精霊棚はなぜ設けるの？ お供え物に乾物はいけないの？ など、主に他宗派の習わしに対する質問が多くありました。

「人間にはご先祖の供養はできない」などと言ってもなかなか理解してもらえないのが浄土真宗の難しいところですね。私たち浄土真宗の僧侶は、他宗をよく理解し受け入れ、その上で優しく浄土真宗の教えを伝えていく必要があるのでしょうか。

## 新しい施設の紹介

工事中は大変ご迷惑をおかけいたしました。無事に施設の改修工事が済みました。写真左手の施設は寺の台所やリビング、風呂があった場所ですが、改修後は事務室、トイレ、休憩所になりました。写真右手の木の引き戸は以前の玄関ですが、今はご遺体の安置室です。ここでは小規模(10人未満)の葬儀がお勤めされております。霊柩車の出入りのため、門の間口が広がりました。



## みんなの法話

# 出会いの不思議

同じ景色が全く違った世界に見える

■ 寺本 知正 ちもと ともまさ  
中央仏教学院講師・大阪市 極楽寺衆徒

## 「お前もやってみ」

ある先生から、こう聞かせていただいたことがあります。

「仏法は人から人へ伝わる。だから自分に仏法を聞かせてくれたのが誰かを言うことができないようではだめだ」

たしかに、私自身も「この人の言うことはまだ自分にはよくわからないが、いつかわかるようになりたい」、そう思える方々との不思議な出会いによって育てられてきたように思います。

人との出会いによって、それまでの自分には知られていなかった世界が知られてくる、このことは、いろいろな場面でもいえることだと思います。

学生の頃、京都の大徳寺という臨済宗のお寺で座禅をならっていたことがあります。3年間、1日も休まず毎晩通っていました。座禅だけでなく、作務といって、廊下の雑巾がけや庭の掃除も、時々手伝わせていただいていた。

あるとき、庭の苔にはえた細かな雑草を摘んでいますと、和尚さんがちょ